和会塾

第一冊

要約して読む

文章の流れと中心をつかむ

全六章　十八の文章と章末練習

「何の話だった？」と聞かれて、

一つの場面だけが思い浮かぶことがあります。

その場面の前と後ろで、何が起きていたでしょう。

はじめに

この本の使い方

短い要約を書いてみると、読んだときには気づかなかった疑問が出てきます。なぜ道を変えたのか。いつの話だったか。二人とも同じことを言っていたのか。疑問が出てきたら、そこが本文に戻る場所です。

一　本文を読む

初めに何が話題になり、読み終えたときには何が見えてきたかをたどります。話の流れがつかみにくいときは、気になった言葉を一つ選び、その前後をもう一度読んでみましょう。

二　自分の言葉で試す

選ぶ、並べる、書き足す、言いすぎたところを直す、といった課題もあります。本文を見ながら書いてかまいません。升目は一行につき最大二十字。句読点・かぎ括弧・数字も、一文字を一字と数えます。

短い例で確かめる

練習で二人の弾き始めがずれた。互いの顔が見える向きに椅子を置き、うなずいてから弾くと、最初の音がそろった。

話題	二人の演奏の練習
出来事のつながり	弾き始めがずれた → 向かい合い、うなずきを合図にした → 最初の音がそろった
要約	出だしがずれていた二人は、向かい合ってうなずきを合図にし、最初の音をそろえた。

三　解答と読み比べる

解答例と自分の文で、初めに置いたものが違ってもかまいません。自分が選んだ言葉を本文が支えているか、理由と結果がつながっているかを確かめましょう。直したい一か所だけを書き直す使い方もできます。

章末と発展の使い方

一度に一回分を目安に進めましょう。「発展」は、別の長さや目的でも書いてみたいときに取り組めます。第一・四・六章の章末には、巻末の原稿を使った聞き取りの練習があります。

問題編・解答解説編

目次

章・回	問題	解答
第一章　話題と中心をつかむ		
一　公園の近道	4	29
二　同じ時刻の影	5	30
三　短い案内	6	30
章末　二つの時刻を伝える	7	31
第二章　話はどのように進むか		
一　二枚の地図	8	32
二　朝だけ見える網	9	32
三　ノートの余白	10	33
章末　順に並べたあとで	11	34
第三章　具体例は何のためにあるか		
一　平均の五分	12	35
二　二つの「いいよ」	13	36
三　赤い札と青い札	14	36
章末　短くしても残したい違い	15	37
第四章　反対の見方や条件を残す		
一　短い説明札	16	38
二　川沿いの明かり	17	39
三　読書会の沈黙	18	39
章末　何に重きを置いて伝えるか	19	40
第五章　何を残し、何を省くか		
一　灯台までの二つの道	20	41
二　校庭の鳥を数える	21	42
三　録画をめぐる会議	22	42
章末　伝える相手に合わせて書き分ける	23	43
第六章　全体を受け取り、伝える		
一　読む速さを決めるもの	24	44
二　版を重ねる	25	45
三　商店街の音をたどる	26	46
章末　もう一度、自分の言葉で	28	47
読み上げ用原稿		**48**

問題編　第一章　第一回　／　話題と中心をつかむ　**解説 29 頁**

公園の近道

話題は「何の話か」、中心は「その話で何が分かったか」。短い文章で、二つを少しずつ分けていきましょう。

公園の芝生に細い土の道ができていた。人が同じ場所を歩いたためだ。管理人はロープでふさいだが、歩く人は端を回り、別の場所にも道ができ始めた。

朝の様子を見ていると、多くの人が駅へ向かい、公園を斜めに横切っていた。そこでその方向に歩道を設けたところ、遠回りせずに歩けるようになり、芝生を踏む人は減った。

問一　何について書かれた文章ですか。話題を短い言葉で表しましょう。（15〜25字）

問二　本文全体の中心を最もよく伝える文を一つ選びましょう。

ア　管理人がロープを張ると、人はその端を回って芝生に別の道を作った。

イ　駅へ向かう人の動きに合わせて歩道を設けると、芝生を踏む人が減った。

ウ　公園に来る人が増えたため、管理人は駅から公園へ続く歩道を設けた。

解答　〔　　〕

問三　最初に試したことと、その後の変化を結んで、本文を要約しましょう。（55〜75字）

問題編　　第一章　第二回　／　話題と中心をつかむ　　解説 30 頁

同じ時刻の影

広場に立てた棒の影を、朝、昼、夕方に観察すると、長さも向きも変わっていた。棒が動いたのではない。太陽の見える位置が変わったためだ。

では、毎日同じ時刻に影を測れば、長さはいつも同じになるだろうか。実際には、季節が変わると、同じ時刻でも太陽の高さが違い、影の長さも変わる。影を比べるときは、棒が動いたかどうかだけでなく、測った時刻と季節にも目を向ける必要がある。

問一　前半と後半で比べているものはどう違いますか。正しい組み合わせを選びましょう。

ア　前半は季節の違い、後半は一日の中の時刻の違い。

イ　前半は棒の高さの違い、後半は太陽の高さの違い。

ウ　前半は一日の中の時刻の違い、後半は同じ時刻での季節の違い。

解答　〔　　〕

問二　次の一文にもう一文を足し、全体の要約にしましょう。書き足す一文だけを解答欄に書きます。（35〜55字）

棒の影は、一日のうちでも太陽の見える位置によって長さや向きが変わる。

問題編　第一章　第三回　／　話題と中心をつかむ　解説 30 頁

短い案内

「来週の説明会の案内、もっと短くできるかな」と担当者が言った。

佐和は一枚に収めようと会場までの地図を外した。森は地図を残し、長いあいさつを削った。どちらも頼まれたことは守っているつもりだった。

二人の案を見比べた担当者は、「初めて来る人が迷わないのは、どちらだろう」と尋ねた。佐和は、地図がないと駅からの道順を知らない人が困ると気づいた。二人は日時、場所、持ち物を確認し、重なっていた説明を整理した。できあがった案内は一枚で、初めて来る人にも必要な情報が残っていた。

問一　次の甲・乙は、ともに案内が一枚になった経緯を説明しています。本文で二人が大切にしたことが伝わるほうを選びましょう。

甲　二人はそれぞれ削る箇所を選んだ。最後に重なった説明を整理して一枚に収めた。

乙　二人は別々の箇所を削ったあと、初めて来る人に必要な情報を確かめて案を整えた。

解答　〔　　〕

問二　次の〔　〕に、二人が案を見直したきっかけを一文で補いましょう。（35〜55字）

佐和は地図を外し、森は長いあいさつを削った。〔　〕二人は必要な情報を残して説明の重なりを整理し、案内を一枚に収めた。

問題編　第一章　章末練習　読み上げ 48 頁　解説 31 頁

二つの時刻を伝える

聞く課題は任意です。一人で取り組む場合は、巻末の原稿を一度読んで閉じてから、声に出して伝えてみましょう。

聞いて伝える

巻末の「第一章」の連絡を読んでもらいましょう。初めて参加する人に、いつ行けばよいかを三十秒ほどで伝えてください。聞き直したいときは、どちらの時刻を確かめたいかを伝えましょう。

問題編　　第二章　第一回　／　話はどのように進むか　　解説 32 頁

二枚の地図

初めと終わりの間で、何が動いたでしょう。出来事の順も、誰かが抱いた疑問の変化も、文章の流れを作ります。

町の資料館に、古い地図と今の地図が並んでいた。古い地図には駅がなく、今の駅前広場にあたる場所に池が描かれていた。航は、古い地図が間違っているのかと思った。

ところが、地図の端に記された発行年を確かめると、それは百年前のものだった。古い地図では細い道が池の西側を回っていた。今の地図には、駅の南を通る広い道路が描かれていた。資料館の説明には、池を埋めて駅前を整え、その後道路を通したとある。

航は初め、今いる場所が地図のどこにあるかを探していただけだった。帰り際には二枚の地図の同じ場所を指でたどり、道が変わる前には人がどこを歩いていたのだろうと考えていた。

問一　発行年と資料館の説明は、それぞれ何を知る手掛かりになりましたか。（40〜60字）

問二　航の関心がどこからどこへ移ったのかを含め、物語を要約しましょう。（65〜85字）

問題編　　第二章　第二回　／　話はどのように進むか　　解説 32 頁

朝だけ見える網

朝、庭のすみの低い枝に、白く光るクモの巣がかかっていた。夕方には見当たらず、澪はクモが片づけたのだと思った。翌朝、同じ枝にまた巣が光っていた。澪は、クモが毎朝作り直しているのかもしれないと考えた。

ところが、その日の昼過ぎに枝の向こうへ黒い紙をかざすと、光っていない細い糸が何本も交わっているのが見えた。朝は糸についた小さな水滴が光を受けて巣を目立たせていたが、昼には水滴がなくなり、巣が見えにくくなっていたのだ。

もちろん、クモが巣を張り直すこともある。ただ、この枝の巣が夕方に見えなくなったというだけでは、取り払われたと決められない。澪は次の日も、同じ枝を朝と昼に確かめることにした。

問一　黒い紙を使った観察から言えることを一つ選びましょう。

ア　昼過ぎにも糸が見えたので、光っていなくても巣が残っている場合がある。

イ　昼過ぎにも糸が見えたので、その糸が翌朝まで同じ枝に残っていたと分かる。

ウ　昼過ぎにも糸が見えたので、クモはそのあと夕方に巣を片づけたと分かる。

解答　〔　　〕

問二　澪が予想を見直したわけをたどって、本文を要約しましょう。（80〜95字）

問題編　第二章　第三回　／　話はどのように進むか　解説 33 頁

ノートの余白

発表会の夜、結衣は机で練習ノートを開いた。最後のページには「次は、もっとゆっくり」とある。それを書いたのは前日、練習を聞いた友達に「少し速くて、途中が分からなかった」と言われたあとだ。

結衣は言葉を急がずに話す練習をしたが、本番では途中で言うことを忘れ、数秒黙ってしまった。客席を見ると、前の列にいた子が顔を上げてこちらを見ていた。結衣は資料の一行に目を戻し、続きを話した。

帰り道、友達が「途中、みんな静かになったね」と言ったので、結衣は失敗を思い出した。けれど友達は「そのあと、前より聞きやすかった」と続けた。ノートの余白に、結衣は「止まっても続けられた」と書き足した。前日の言葉は、そのまま残した。

問一　次の出来事を、実際に起きた順に並べましょう。

ア　帰り道に友達の感想を聞く

イ　友達から話す速さを指摘される

ウ　発表の途中で黙り、続きを話す

エ　ノートに新しい一行を書き足す

解答　〔　　〕

問二　この物語を要約しましょう。結衣が本番で何を経験し、それをノートにどう残したかが伝わるようにします。（75〜95字）

問題編　第二章　章末練習

解説 34 頁

順に並べたあとで

二つの要約を比べる

「ノートの余白」を次の二人が要約しました。甲と乙にそれぞれよく表れていることを一つずつ挙げましょう。

甲　結衣は前日に話す速さを指摘され、本番で黙り込んだが続きを話した。帰りに友達の感想を聞き、夜、ノートにその経験を書き加えた。

乙　「次は、もっとゆっくり」と書いた結衣のノートに、本番で止まっても続きを話せたという一行が加わった。前の日の注意もそこに残った。

読み返す

甲に一つだけ具体的なことを足せるなら、何を加えますか。加えると何が伝わるかも書きましょう。

問題編　　第三章　第一回　／　具体例は何のためにあるか　　解説 35 頁

平均の五分

数字や会話を一つ省くと、何が伝わらなくなるでしょう。例と例を並べた理由をたどります。

駅前の店では、客が列に並んでから注文するまでに何分かかったかを記録していた。月曜日の五人は、一分、一分、一分、一分、二十一分。火曜日の五人は、五分、五分、五分、五分、五分。店長がその日の終わりにつける表では、どちらの日の欄にも「平均五分」とだけ書いてあった。

火曜日の五分は、五人の誰に尋ねても、その人が実際に待った時間と同じになる。けれども月曜日に列の最後で二十一分待った客がいることは、平均の欄からは読み取れない。

水曜日、店長は表の右端にもう一本、縦の線を引いた。平均の隣の欄には、その日いちばん長く待った人の時間を書くことにした。

問一　平均の欄を見ただけでは分からないことを、二日分の記録から一つ挙げましょう。

問二　店長が表に欄を加えた理由を含め、本文を要約しましょう。（85〜105字）

問題編　第三章　第二回　／　具体例は何のためにあるか　解説 36 頁

二つの「いいよ」

文化祭の準備中、佐伯が美月に「この机を窓際に移してもいい？」と尋ねた。「いいよ」と答えて、美月は机の反対側を持った。二人で机を窓際へ運んだ。

別の日、美月が重い箱を持っていると、佐伯が「手伝おうか」と声をかけた。美月はここでも「いいよ」と答えたが、箱を持ったまま一人で歩き始めた。

二つの「いいよ」は、同じ言葉だ。けれども、最初は机を移すことを認め、次は手伝いの申し出を断ったと受け取れる。どちらも返事の前の問いと、その後の行動を合わせることで、意味がはっきりしてくる。

ただし、二つ目の返事から、美月がなぜ断ったのかまでは決められない。遠慮したのかもしれないし、自分で運べると思ったのかもしれない。

問一　次の説明の二文目を、本文から言える範囲で書き直しましょう。（35〜55字）

美月は最初、机の移動を認めた。次は、重い箱を持っていたが、佐伯に遠慮して手伝いを断った。

書き直したあと、二つの場面で佐伯の声かけと美月の動きに線を引いて比べましょう。

発展　二つの返事を比べて分かることを含め、本文全体を要約しましょう。（85〜105字）

問題編　第三章　第三回　／　具体例は何のためにあるか　解説 36 頁

赤い札と青い札

赤い札が八枚、青い札が二枚入った箱がある。札をよく混ぜて一枚引けば、赤のほうが出やすい。ただし、赤が必ず出るわけではない。

ある人は青い札を引き、「赤が出やすいという説明は間違いだ」と言った。その青い札を箱に戻して、もう一度よく混ぜた。

別の人は同じ箱から五回引き、一枚引くたびに札を箱に戻して混ぜた。五回とも赤だったので、「この箱からは赤しか出ない」と言った。最後に中を数えると、やはり赤が八枚、青が二枚あった。

問一　引いた札はそのつど箱に戻しています。箱の中の枚数に照らして、二人の結果をどう受け止めればよいでしょう。最も適切なものを選びましょう。

ア　五回とも赤だったことは箱の内訳に合うが、最初に青が出たことは内訳に合わない。

イ　最初に青が出たことは箱の内訳に合うが、五回とも赤だったことは内訳に合わない。

ウ　最初に青が出ても、五回とも赤が出ても、どちらも赤のほうが出やすいことと矛盾しない。

解答　〔　　〕

問二　次の要約を、二人の例をともに生かして書き直しましょう。（55〜80字）

青が出たり赤が続いたりしたので、箱の中の枚数を調べても何も分からない。

問題編　第三章　章末練習

解説 37 頁

短くしても残したい違い

二案を読む

「平均の五分」の要約を短くした甲・乙を比べ、本文に二日分の数字を並べた理由が伝わるほうを選びましょう。もう一方で消えた内容は何ですか。

甲　店は二日分の記録を調べ、平均を計算した。それから記録の仕方を変えた。

乙　二日とも平均は五分だが、一人だけ長く待った日は平均からは見分けられない。店は最長の時間も記録することにした。

自分の文を縮める

この章で書いた答案を一つ選び、二十字ほど短くしてみましょう。削りたい箇所に先に線を引くと、削ったあとに何が残るかを試せます。

問題編　第四章　第一回　／　反対の見方や条件を残す　解説 38 頁

短い説明札

ある場所、ある人について言えたことは、別の場所や人にも言えるでしょうか。どこまでが確かかを読みます。

博物館の布の展示室には、短い説明札が二枚ある。

一枚は、織り機の実演台を囲む床の白い線の前にある。「実演が始まる前に、線の外へお下がりください」。台の横には、機械の腕がどこまで動くかを示す絵もある。始まる直前に来た人は、絵と足元の線を見比べ、一歩下がってから、織り上がった布が少しずつ長くなっていくのを眺めた。

もう一枚は、奥の棚に置かれた木の杼（ひ）のそばにある。杼は、織りかけの布に横糸を通す道具だ。札には、小さな町の工房で三代にわたって使われたとある。ひとりの来館者が、杼の真ん中の、何度も指に触れてすり減ったところを見つめ、棚の横の冊子を開いた。そこには、代々の使い手が欠けた先端を削り直してきたことが、写真とともに記されていた。

実演台の札を冊子に移せば、機械が動き始めてから初めて注意を読む人が出るかもしれない。棚の前では、短い札を読んだ人が先に道具をじっくり見て、もっと知りたくなってから冊子を開くことができる。

問一　二枚の札のうち、札に書かれたことをあとで冊子で読むだけでは、間に合わないのはどちらですか。理由も書きましょう。（40〜60字）

問二　二枚の札がそれぞれどんな役割を果たしているかを含め、本文を要約しましょう。（80〜105字）

問題編　第四章　第二回　／　反対の見方や条件を残す　解説 39 頁

川沿いの明かり

「川沿いの道の照明を増やしてほしい」という声が町に届いた。夕方は歩行者の足元が見えにくく、橋の近くでは段差につまずきそうになった人もいた。一方、川辺に住む人からは、窓に明かりが入ることや、夜の川の景色が変わることを心配する声があった。

町はまず橋の付近に仮設の照明を置き、数日間、歩く人に見え方を尋ねた。何人かから、足元が見やすくなったという声があったが、試したのは橋の近くだけで、川沿い全体については確かめられていない。住宅側に光が漏れるかどうかも、角度を変えて調べる必要があった。

照明を増やすか、増やさないかという二つの答えだけでは、問題を捉えきれない。明るさが必要な場所と、光を抑えたい方向とを分けて考えられるからだ。ただし、場所ごとの調整が実際に安全と暮らしの両方に役立つかは、追加の確認を経て判断しなければならない。

問一　次の報告には、試して分かったことにも、町が決めたことにも言いすぎがあります。二か所とも直し、報告全体を書き直しましょう。（65〜85字）

仮設照明で川沿いの道の安全性が証明された。町は川沿い全体への設置を決めた。

問二　本文全体の要約には、問一の報告の前に何を足すとよいでしょう。照明が話題になった背景を一文で書きましょう。（40〜60字）

問題編　第四章　第三回　／　反対の見方や条件を残す　解説 39 頁

読書会の沈黙

図書館で小さな読書会が開かれた。司会の由紀は、感想を尋ねても返事が少ないことが気になった。参加した全員に順番に話してもらえば、会が活発になるのではないかと考えた。

翌週、由紀がその案を話すと、参加者の一人が「読み終わってすぐには考えがまとまらない人もいるのでは」と言った。由紀は、黙っている人が話したくないのか、言葉を探しているのか、自分には分からないと気づいた。

そこで次の回は、話したい人がまず発言し、すぐには声に出して話しにくい人は紙に書いてもよいと案内した。発言する人は増えなかったが、紙にはいくつかの感想が残った。ただ、その紙に書かれた言葉が、全員の考えを表しているわけでもなかった。

帰り際、由紀は参加者に、次回は始める前に考える時間を少し設けたいと伝えた。沈黙をすぐ問題と決めなくなった一方で、参加しやすい方法を探すことは続けようと思った。

問一　「感想を紙に書いてもらう方法はうまくいった」という説明を、発言した人の数と紙に残った感想の両方に触れて言い直しましょう。（45〜65字）

問二　由紀がはじめに考えた方法と、実際に試したことに目を向けて、物語全体を要約しましょう。（90〜110字）

問題編　第四章　章末練習　読み上げ 48 頁　解説 40 頁

何に重きを置いて伝えるか

聞く課題は任意です。一人で取り組む場合は、巻末の原稿を一度読んで閉じてから、声に出して伝えてみましょう。

同じ本文の二つの要約

「川沿いの明かり」について、甲・乙はそれぞれ何を詳しく伝えていますか。川辺の住民に試行の現状を知らせるなら、乙に何を一言加えたいですか。

甲　川沿いに照明を増やしてほしいという声があり、川辺の住民は家に入る光や夜の景色を心配した。町は橋付近で仮設の明かりを試した。

乙　橋付近では足元が見やすくなったとの声があった。試した場所は限られており、ほかの場所にも同じ効果があるかはまだ分からない。

聞いて確かめる

巻末の「第四章」の報告を読んでもらい、確かめられたことと、これから調べることを三十秒ほどで説明しましょう。必要な箇所は聞き直せます。

問題編　第五章　第一回　／　何を残し、何を省くか　解説 41 頁

灯台までの二つの道

長く書けるときにも、選ばなくてはいけません。短くしたときにも残したい関係を探します。

駅の待合室に、灯台までの手描きの地図が置いてあった。青い線は、入江に沿って何度も坂を上る道。緑の線は、住宅街をぐるりと回る、坂の少ない道だった。ベンチのある公園には、小さな丸がついていた。

雪乃は青い線を指でなぞった。灯台へはバスでも行ける。けれど、海にせり出した岩の向こうで、ときどき灯台が隠れ、また現れるところを見ながら歩いてみたかった。坂の上で振り返ると、さっきまでいた浜がずいぶん小さく見えた。

灯台に着くころには、ふくらはぎが少し張っていた。駅へ戻ろうと、雪乃は地図を広げた。海沿いの道なら距離は短い。住宅街へ回れば遠くなるけれど、坂は少なく、途中の公園で腰を下ろせる。今度は緑の線をたどった。

公園のベンチで靴ひもを結び直す間、灯台は家々の屋根に隠れて見えなかった。雪乃は地図の小さな丸に指を置き、駅までの残りの道を確かめた。

問一　行きと帰りの道の選び方が伝わるよう、物語を要約しましょう。（90〜110字）

問二　問一を書いたら、解説の「比べる文」と見比べましょう。省ける描写を一つ選び、それがなくても何が伝わるかを書きましょう。

問題編　第五章　第二回　／　何を残し、何を省くか　解説 42 頁

校庭の鳥を数える

学校の観察ノートには、四月のある朝に「校庭で鳥を十二羽見た」と記されていた。五月の記録は六羽だった。理科係の愛は「一か月で鳥が半分に減った」と考えた。

しかし、二つの記録を確かめると、四月は登校前に二十分、校庭全体を歩きながら数えていた。五月は昼休みに十分、教室の窓から見える範囲だけを数えていた。見た場所も時間帯も、観察した長さも違っていたのである。

別の係は「条件がそろっていないなら、どちらの数字も役に立たないのかな」と尋ねた。担当の先生は、記録を捨てる必要はないと言った。それぞれの日に、どのような条件で何羽見えたかを示す記録としては残せる。ただ、その二つを比べて、校庭に来る鳥の数が減ったとは言えない。

係の人たちは、次回から観察の場所、時間帯、長さをそろえ、天気や数え方も記すことにした。それでも数回の観察で、町全体の鳥の数まで分かるわけではない。愛は、最初の「半分に減った」という一文を消し、数字の横に観察した条件を書き足した。

問一　甲・乙はそれぞれ何を言いすぎていますか。二つ合わせて説明しましょう。（60〜80字）

甲　五月に校庭へ来た鳥は、四月の半分に減った。

乙　四月と五月では条件が違うから、どちらの記録も役に立たない。

問二　二回の観察をどう受け止め、今後にどう生かすことにしたかを要約しましょう。（90〜110字）

問題編　第五章　第三回　／　何を残し、何を省くか　解説 42 頁

録画をめぐる会議

市民向けの小さな講座を開いたあと、参加できなかった人から「あとで話を聞けるよう、録画を公開してほしい」と連絡があった。運営を担当する真琴と亮は講師と三人で、次回の講座を録画するか話し合った。

真琴は、仕事や介護で会場へ来られない人にも内容を届けられると賛成した。亮は、質問する参加者の顔や声まで残ると、発言をためらう人が出るかもしれないと心配した。講師は、説明している部分なら録画してよいが、参加者とのやり取りはその場限りにしたいと話した。

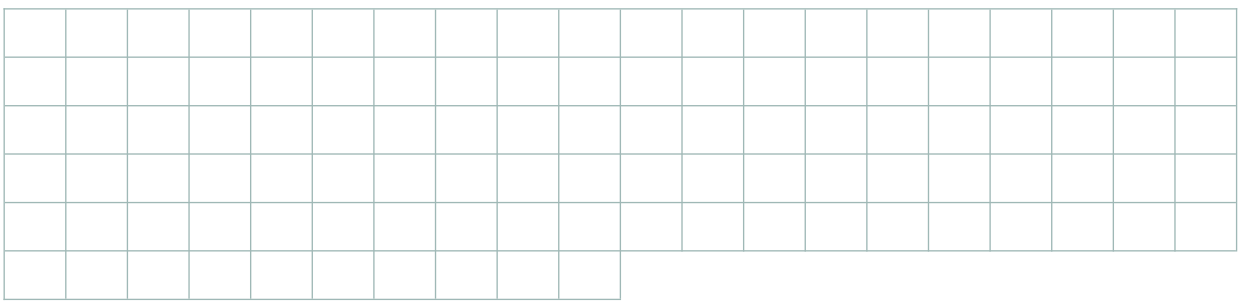
三人は、まず次回だけ試す案を考えた。講師の説明部分に限って撮影し、質問があったことを紹介する場合も、本人の了解を得て内容を文章にまとめる。撮影しない席も設け、公開する前には講師に動画を確認してもらう。

ただし、その方法で参加者が安心して質問できるかは、まだ分からない。三人がその日に決めたのは、試行に必要な準備を進めることだけだった。録画を実施するかは、会場と講師への最終確認後に決め、今後も毎回公開するかは試行を振り返って判断することにした。

会議をまとめた真琴は、ノートの見出しを「録画公開を決定」から「録画の試行を検討」に書き直した。

問一　欠席者に配る報告の見出し「次回の講座、録画公開が決まる」を、会議で決まった範囲に直しましょう。

問二　利点と懸念がどんな判断につながったか、会議に出ていない人へ要約しましょう。（90〜110字）



問題編　第五章　章末練習

解説 43 頁

伝える相手に合わせて書き分ける

短く伝える練習と、詳しく伝える練習があります。どちらか一方だけでもかまいません。

短く伝える　発展

「録画をめぐる会議」の報告を、決まり具合だけ先に知りたい人に向けて短くしましょう。（55〜70字）

詳しく伝える　発展

「録画をめぐる会議」を、初めて準備に加わる人に向けて詳しく報告しましょう。基本の要約に、何をどのように試す案かを補います。（140〜160字）

問題編　第六章　第一回　／　全体を受け取り、伝える　解説 44 頁

読む速さを決めるもの

ここでは最初から全体を要約します。何を手掛かりにするか、どこから書き始めるかを自分で選んでみましょう。

読むのが速い人を見ると、文章をよく理解しているように思えることがある。しかし、速く読めたことと、必要なことを受け取れたことは同じではない。

たとえば、電車の発車時刻を知りたいとき、時刻表のすべての行を同じ速さで読む必要はない。行き先と時刻を探せばよい。一方、募集の案内を読むときは、申込期限だけでなく、対象者や例外の条件を確かめなければ、読み終えたつもりでも申し込めないことがある。

では、ゆっくり読めば必ずよく理解できるのだろうか。そうとも限らない。初めから細部を一つずつ確かめようとして、何のための文章かを見失うこともある。まず全体を見渡し、必要な箇所へ戻る読み方が役立つ場合もある。

友人から届いた長い手紙なら、読み終えた直後に一文で内容を言えなくても、ある言葉が後から気になり、再び読み返すことがある。そこでは、情報を早く取り出すことだけが読む目的ではない。

大切なのは、速く読むか遅く読むかを先に決めることではなく、何を受け取ろうとしているのかを確かめ、途中で読み方を変えられることである。とはいえ、読み方を選んだだけで理解が保証されるわけでもない。読んだ内容を説明してみて、足りないところへ戻る必要もある。

問一　この文章をまだ読んでいない人に向けて、全体を要約しましょう。（95〜110字）

手が止まったときに

時刻表は探す箇所が先に決まっています。手紙を読み返したくなるのは、どんなときでしょう。

問題編　第六章　第二回　／　全体を受け取り、伝える　解説 45 頁

版を重ねる

美術室の窓に、干してある紙が一枚ずつ揺れていた。凪と理央は港の版画を刷っていた。黒い線で船と波の輪郭を刷り、その上に青を重ねる。船腹に青を置く小さな版と、波を青くする横長の版は、別々に作ってある。

一枚目の紙を持ち上げた理央が、「あれ」と言った。船のへりに黒と青の線が二本走っていた。青が少し右へずれていた。波のほうでも、黒い線と青い面のあいだに、細く紙の白がのぞいていた。

「次は、もう少し左だね」と、理央が二つの版に手を伸ばした。凪は乾きかけた紙を窓際に持っていった。「船はそうだね。でも、こっちはどう？」と凪が紙を傾けた。波のてっぺんに、紙の白が細く走っている。青が黒い線に触れたところで、白はいったん途切れ、隣の波でまた現れた。凪の指を追って理央も窓際まで来た。「そこ、波がひっくり返るところみたいだ」

二枚目では、理央が船腹の版を黒い輪郭にぴたりと合わせた。波の版を置くときには、凪が一枚目を横に持った。理央はそれを見ながら、波の版だけをほんの少し右に寄せた。

二枚を並べて干すと、船のへりは違うのに、波の白いところはよく似ていた。廊下からの風で一枚目が裏返り、凪は乾いた角をつまんで、また表に向けた。

問一　この物語を要約しましょう。何を中心にしてまとめるかは、自分で選びます。（105〜130字）

手が止まったときに

最後に並んだ二枚を思い浮かべましょう。船のへりと波とで、一枚目から二枚目へ何が変わったでしょう。

商店街の音をたどる

町の文化センターが、商店街の音を残す企画を始めた。古い店が閉まり、通りの様子が変わってきたためだ。担当者は朝の通りで録音機を回し、開店前のシャッターの音、自転車が通る音、店先のあいさつを録った。完成した音源を聞くと、朝の通りを歩いているようだった。

ところが、長年その商店街で働いた人は「私が覚えているのは夕方の呼び込みだ」と言った。朝だけ録音しても、商店街の一日は分からない。そこで担当者は、時刻を変えて録音を重ねた。しかし、録音できなかった日や、すでに聞こえなくなった音もあった。

市が以前行った騒音調査の記録も見つかった。その数値からは、調査時に測った音の大きさを確かめられる。一方、その数値だけでは、何の音が聞こえていたのか、誰にとってどんな意味があったのかは分からない。担当者は、それぞれが示す内容の違いを確かめた。

さらに、店を営んでいた人たちに話を聞くと、同じ夕方の呼び込みについても、「にぎやかで好きだった」という人と、「仕事が終わっても落ち着かなかった」という人がいた。思い出は録音の代わりにはならないが、音がどのように受け取られたかを知る手がかりにはなる。ただし、話を聞けた人の記憶が、当時そこで暮らしたすべての人の経験を表しているわけではない。

展示を準備する会議で、「昔の商店街の音を完全に再現する」という案が出た。担当者はその表現に迷った。残せた録音がある一方、録音できなかった時間もある。測定記録は音の強さを示し、語りは音への感じ方を伝えるが、それぞれに届かない部分もあるからだ。

展示の題は「商店街の音をたどる」になった。録音には日時と場所を、測定記録には測り方を、聞き取りには話した人の立場と時期を添えた。展示は、かつての通りそのものを取り戻すものではない。それでも、異なる記録を行き来すれば、一つの音源だけでは気づかなかった通りの姿を考えることができる。

問題編　　第六章　第三回　　本文 26 頁　解説 46 頁

商店街の音をたどる

本文は前の頁にあります。

長さを変えて伝える

問一を書いたところで一度区切ってもかまいません。問二は、本文を読み返してから取り組めます。

問一　文化センターはなぜ異なる資料を並べ、どんな展示を作ったのでしょうか。本文中の具体例を一つ使って要約しましょう。（125〜155字）

問二　問一の要約を、展示案内に載せる短い紹介文にしましょう。どの資料を使い、どんな展示にしたかが伝わるようにします。（65〜85字）

手が止まったときに

録音、測定値、語りのうち、「落ち着かなかった」という経験を伝えられるのはどれでしょう。三つの資料がそれぞれ伝えるものに印をつけてもかまいません。

問題編　第六章　章末練習

読み上げ 48 頁　解説 47 頁

もう一度、自分の言葉で

聞く課題は任意です。一人で取り組む場合は、巻末の原稿を一度読んで閉じてから、声に出して伝えてみましょう。

聞いて伝える

巻末の「第六章」の連絡を読んでもらい、遅れて参加する人に三十秒ほどで伝えましょう。今知らせてよいことと、次の準備会で相談する案を分けて伝えましょう。必要なら聞き直してください。

書いたものへ戻る

この章の自分の要約から一文を選び、その文を支える箇所を本文で探しましょう。初めて読む人に誤解されそうなところがあれば、そこだけ書き直してください。

解答解説編

第一章　話題と中心をつかむ

第一回　公園の近道

問題 4 頁

問一　　15〜25字

解答例　公園の芝生にできた近道と管理人の対応（18字）

別解　芝生を横切る人の通り道をめぐる公園の工夫（20字）

「公園」だけでは、遊具の話なのか芝生の話なのか分かりません。「近道」と、それにどう対応したかを組み合わせると、話題の範囲が定まります。

問二

解答　イ

アは初めの対応とその結果までです。ウでは人の行き先が公園になり、駅を目指して横切っていた本文と食い違います。イには観察、歩道の位置、結果がそろっています。

問三　　55〜75字

解答例　公園の芝生にできた近道をロープでふさいでも、別の場所が踏まれた。管理人は駅へ向かう人の動きに合わせて歩道を設け、芝生を踏む人を減らした。（68字）

別解　芝生を守るために近道をふさいでも、人は脇を通った。管理人が駅へ向かう人に合わせて歩道を設けると、遠回りせずに済み、芝生を踏む人は減った。（68字）

別解　管理人は公園を斜めに横切る人の行き先を確かめた。ロープでふさいでも守れなかった芝生は、駅へ向かう方向に歩道ができると踏まれることが減った。（69字）

「ロープを張った。歩道を設けた」でも順序は正確です。けれど、なぜ対応を変えたのかが見えません。ロープでふさいでも通り抜けが続いたことと、人の行き先を見て歩道の位置を決めたことを結ぶと、設けたあとに芝生を踏む人が減った理由まで伝わります。

自分の答案を確かめる

なぜそこに歩道を設けたか、設けたあと芝生を踏む人がどうなったかは伝わりますか。

第二回　同じ時刻の影

問題 5 頁

問一

解答　ウ

前半では朝・昼・夕方と時刻を動かします。後半は時刻をそろえたまま季節を変えます。アは順序が逆で、イの「棒の高さ」は本文では変えていません。

問二　35〜55字

解答例　同じ時刻でも季節によって太陽の高さと影の長さが変わるので、時刻と季節の両方を確かめて比べたい。（47字）

別解　同じ時刻でも季節によって太陽の高さが違い、影の長さも変わるため、比べるときは時刻と季節を確かめる。（49字）

別解　一日のうちの違いに加え、同じ時刻でも季節が変わると影の長さが違うので、測定の時刻と季節に注意する。（49字）

「棒は動いていない」と足しても、前半を詳しくしただけです。後半は、同じ時刻に測っても影の長さがいつも同じとは限らないという話です。季節によって太陽の高さが違うことを足すと、何に注意して比べるのかが見えます。

自分の答案を確かめる

初めの一文にすでにある情報と、後半を読んで初めて分かることを区別できましたか。

第三回　短い案内

問題 6 頁

問一

解答　乙

甲の出来事も本文にあります。ただ、短くする過程しか伝えません。乙には「読む人に必要な情報が残るか」という、二人が案を見直したときの基準があります。

問二　　35〜55字　　短い案内

解答例　担当者から初めて来る人が迷わないかと尋ねられ、佐和は地図を外すと道順が分からない人が困ると気づいた。（50字）

別解　担当者が、初めて来る人が迷わずに会場へ行けるのはどちらの案かと、二人に尋ねた。（39字）

別解　担当者にどちらの案なら初めて来る人が迷わないかと聞かれ、佐和は地図を必要とする人がいることに気づいた。（51字）

前の文は削った箇所、後ろの文は仕上がりです。間に担当者が何を尋ねたかを書けば、見直したきっかけが伝わります。佐和がその問いから何に気づいたかまで書くと、地図を残す意味も伝わります。

自分の答案を確かめる

「どう削ったか」に加えて、「誰が読むことを考えたか」が分かりますか。

章末練習　二つの時刻を伝える　　問題 7 頁

聞いて伝える

解答例　集まりは土曜日の午前十時からです。資料を先に受け取りたい方は、九時半から来てかまいません。

別解　土曜日の集まりは午後から午前十時に変わりました。資料を先に受け取りたい方は、九時半から来られます。

九時半から来られるのは、資料を先に受け取りたい方への案内です。どちらの時刻か迷ったら、「九時半は、集まりが始まる時刻ですか。それとも資料を先に受け取る方が来られる時刻ですか」と、聞き直して確かめられます。

第二章　話はどのように進むか

第一回　二枚の地図

問題 8 頁

問一　　40〜60字

解答例　発行年から百年前の地図だと分かり、資料館の説明から池を埋めて駅前を整え、その後に道路を通した経緯が分かった。（54字）

別解　二枚の地図が違う時代を描くと分かったのは発行年からで、池や道がどう変わったかは資料館の説明で確かめられた。（53字）

発行年を見るだけで、池が埋められた事情までは読み取れません。地図の食い違いをどう受け止めるかは発行年が、何が起きたかは資料館の説明が教えてくれます。

問二　　65〜85字

解答例　資料館で古い地図と今の地図を見比べた航は、今の駅前に池があったことを知った。現在地を探すだけだった関心は、かつて人がどこを歩いていたかという問いへ移った。（77字）

別解　資料館で現在地を探していた航は、百年前の地図と今の地図の違いから、池が埋められて駅前が整ったことを知った。帰り際には、昔の人の通り道を考えていた。（73字）

別解　百年前の地図には現在の駅がなく、今の駅前広場には池があった。二枚の地図を見た航は、町の変化を知り、現在地を探すことから昔の道をたどることへ関心を移した。（76字）

「昔は駅のあるところに池があった」で止めると、町の歴史を説明する文になります。帰り際に航が指でたどったのはどこでしょう。かつて人がどう歩いたかは、航がこれから知りたいことです。

自分の答案を確かめる

最後に航が知りたくなったことは、昔の人についての問いとして残っていますか。

第二回　朝だけ見える網

問題 9 頁

問一

解答　ア

澪が昼過ぎに見たのは、光っていない糸が交わる形です。前の日の夕方に巣を片づけたのか、その後も同じ糸が残ったのかは、この観察からは分かりません。

問二　　80〜95字

朝だけ見える網

解答例　朝は光って見えるクモの巣が夕方には消えたと考えた澪は、昼にも糸が残ると確かめた。水滴の有無で見え方が変わるため、見えなくなっただけで巣を取り払ったとは決められない。（82字）

別解　朝見えたクモの巣が夕方には消えたと思った澪は、黒い紙を使って昼にも糸が残ることを確かめた。巣は水滴で見えやすくなるため、見えなくなったことだけでは取り払われたと断定できない。（87字）

別解　澪は夕方に見えなかった巣をクモが片づけたと思った。翌日の昼過ぎに黒い紙をかざすと、目立たない糸が見えた。朝は水滴で巣が目立つため、見えないだけで巣がなくなったとは決められない。（88字）

「クモは巣を張り直さない」と言い切ると、最後の段落に反します。見え方が変わるという別の説明を見つけたので、澪は次の日にも確かめようとしています。

自分の答案を確かめる

昼に確かめたことを、夕方までずっと見て確かめたこととして書いていませんか。

第三回　ノートの余白

問題 10 頁

問一

解答　イ → ウ → ア → エ

冒頭は発表会が終わった夜です。「それを書いたのは前日」で時間が戻ります。友達の二度の発言を、練習を聞いたときと帰り道とに分けると順序を確かめられます。

問二　75〜95字　ノートの余白

解答例　練習で話す速さを指摘された結衣は、本番で言葉が出ず黙ったが、資料を見て続きを話した。帰り道に友達からその後は聞きやすかったと言われ、夜、ノートに「止まっても続けられた」と書き足した。（91字）

別解　結衣は、話す速さを直そうとした発表会で途中言葉を忘れたが、資料を見て続きを話した。友達の感想を聞いた夜、前日に書いた注意の横に、止まっても続けられたという経験を記した。（84字）

別解　結衣のノートには、練習を聞いた友達の指摘を受けた「次は、もっとゆっくり」という言葉があった。本番で言葉を忘れても資料を見て続きを話せた結衣は、その夜、前の言葉を残して新たな一行を書き加えた。（95字）

前日の注意は、これからの目標です。後から足した一行には、本番で実際にできたことが書かれています。「失敗を克服した」では、経験から一歩先のことまで言ってしまいます。

前日	練習を聞いた友達の言葉 → ノートに次の目標を書く
本番のあと	発表を聞いた友達の言葉 → 経験したことを余白に足す

自分の答案を確かめる

最後に書いた言葉と、前からあった言葉の関係が読み手に伝わりますか。

章末練習　順に並べたあとで

問題 11 頁

二つの要約を比べる

解答例　甲は前日、本番、帰り道、夜と経験を時間順に示す。乙は二つの記入を並べ、前日の注意を残して新しい見方が加わったことを伝える。

甲では友達の感想がノートの記入に先立つことが見えます。乙では、前日の自分を取り消さずに新しい一行を加えたことが見えます。何を残したいかによって、使いやすい順序も変わります。

読み返す

解答例　友達が、そのあとの話は前より聞きやすかったと言ったこと。感想の中身が分かれば、結衣が失敗だけをノートに記さなかった経緯が伝わる。

別解　ノートに前日の注意がそのまま残ったこと。速さを直す目標と、止まっても話せた経験を両方残したことが分かる。

本文に戻って選んだ具体的な事柄に、読み手へ知らせるだけの働きがあれば成立します。

第三章　具体例は何のためにあるか

第一回　平均の五分

問題 12 頁

問一

解答例　月曜日には一人だけ二十一分待ったが、火曜日は五人とも五分待ったこと。

別解　客によって待ち時間の開きがあった日と、全員が同じだけ待った日があること。

二日とも五人で合計二十五分です。人数や合計に差を探すより、同じ五分という値のもとで、実際の待ち時間がどう違ったかを比べてみましょう。

問二　　85〜105字

解答例　二日とも五人の平均待ち時間は五分だったが、月曜は一人だけが二十一分待ち、火曜は全員が五分ずつ待った。平均だけでは長く待った人がいたか分からないため、店長は最長の待ち時間も記録することにした。（95字）

別解　店長が記す平均の欄には、二日とも同じ五分が並んだ。ところが元の記録では、一人の待ち時間が際立って長い日と全員が同じだけ待つ日とがあり、店長は平均の隣に最長の時間を書く欄を設けた。（89字）

別解　店長は待ち時間の表に、その日いちばん長く待った人の時間を書く欄を加えた。平均がともに五分の二日間でも、一方では一人だけが長く待ち、他方では五人が等しく待ったという違いがあったからだ。（91字）

「平均は役に立たない」と書くと、平均の隣に新しい欄を作った結びと合いません。数値をどれだけ残すかは選べますが、平均が等しくても待ち方は違うという関係が必要です。

曜日	一人ずつの待ち時間	平均	最長
月曜日	一分・一分・一分・一分・二十一分	五分	二十一分
火曜日	五分・五分・五分・五分・五分	五分	五分

自分の答案を確かめる

数字をいくつか省いたときにも、二日間のいちばん大きな違いは残りますか。

第二回　二つの「いいよ」

問題 13 頁

問一　35〜55字

解答例　次の場面では、美月が一人で箱を運び始めたことから、同じ「いいよ」が手伝いを断る返事だと分かる。（47字）

別解　次は手伝おうかと聞かれて「いいよ」と答え、一人で箱を運んだので、申し出を断ったと受け取れる。（46字）

「遠慮」という言葉に注目しましょう。箱を自分で持ち続けたことは本文に書かれています。遠慮したことは、考えられる事情の一つです。佐伯がどう声をかけ、美月がそのあと何をしたかを結ぶと、二つ目の返事を断りと受け取れる理由が分かります。

発展　85〜105字

解答例　美月は二つの場面で同じ「いいよ」と答えたが、一方では机の移動を認め、他方では手伝いを断った。返事の意味は前後の問いや行動によって分かる一方、断った理由まで決められるわけではない。（89字）

別解　同じ「いいよ」という返事が、文化祭の机の移動では承諾を、箱を運ぶ場面では断りを表した。言葉の働きは前後のやり取りから判断できるが、そこから相手の内心まで断定できるわけではない。（88字）

別解　机を動かすことへの返事と、荷物を運ぶ手伝いへの返事は、どちらも「いいよ」だった。しかし意味は異なる。何に答え、どう行動したかを確かめる必要があり、断った理由まで推測で決めてはならない。（92字）

出来事から始めても、「同じ言葉が別の働きをする」から始めてもかまいません。二場面の違いと、返事からは判断できないことを結ぶと、本文の後半も生きてきます。

自分の答案を確かめる

返事が断りだったことと、なぜ断ったのかを、別々に扱えましたか。

第三回　赤い札と青い札

問題 14 頁

問一

解答　ウ

青が二枚あるので、最初に青を引いてもおかしくありません。赤が八枚なら続けて引くこともありますが、戻すたびに青二枚も箱の中にあります。結果はどちらも起こり得ます。

問二　55〜80字　赤い札と青い札

解答例　一度青を引いても赤が出やすいことは変わらず、赤が続いても青が出ないとは言えない。次の色を決められなくても、札の枚数から出やすさは分かる。（68字）

別解　赤八枚、青二枚の箱では赤のほうが出やすい。一度だけ青が出た結果も、毎回札を戻して五回とも赤が出た結果も、その内訳と食い違ってはいない。（67字）

別解　一度青が出たことから赤が出にくいとは言えず、五回赤が続いても次に青は出ないとは言えない。赤が八枚、青が二枚の箱なら、赤のほうが出やすく、青が出ることもある。（78字）

「次の一枚の色は決められない」と「どちらが出やすいかも分からない」は違います。青が出た例だけを書いた答案は、一度の例の説明としては正確でも、二つ目の発言に答えていません。

自分の答案を確かめる

箱の中身から言えることと、一回ごとの結果が示すことを分けて説明できましたか。

章末練習　短くしても残したい違い　問題 15 頁

二案を読む

解答例　乙。甲では二日間の平均が同じだったことと、長く待った人がいたのは一方の日だけだったことの対照が消えている。

甲には調べた順序が残っています。けれど、それだけでは、記録に欄を加えた理由は読み手に伝わりません。

自分の文を縮める

削る前　店で調べた二日とも五人の平均待ち時間は五分だったが、月曜日は一人だけが二十一分待ち、火曜日は全員が五分ずつ待った。そこで店長は表の右端に最長の待ち時間を書く欄も設けた。

削った後　二日とも平均は五分でも、一人だけ長く待った日と、全員が五分待った日があった。店長は最長の待ち時間も記録することにした。

曜日や欄の位置を省き、一人と全員の違いを残した例です。別の文章を選んだ人も、書き直した文だけを読んで、具体例を二つ置いた意味が伝わるか確かめましょう。

第四章　反対の見方や条件を残す

第一回　短い説明札

問題 16 頁

問一　　40〜60字

解答例　実演台の札。機械の腕が動き始める前に、どこまで下がって見ればよいか、その場で知る必要があるから。（48字）

別解　白い線の前の札。実演を見終わってから冊子を開いたのでは、機械が動く前に線の外へ出るための注意を伝えられない。（54字）

白い線には、観客が実演の前に立ち位置を決める働きがあります。二つの札の文字数がどちらも少ないという共通点だけでは、この違いを説明できません。

問二　　80〜105字

解答例　博物館の実演台では、動き出す前に立ち位置を知ってもらうため、その場に注意を掲げている。一方、杼のそばの札は由来を短く伝え、興味を持った人が道具を見てから冊子で詳しく読めるようにしている。（93字）

別解　同じ短い説明札でも、実演台では機械の動きに備えて来館者に一歩下がってもらう。木の杼の札は道具を見るきっかけになり、さらに知りたい人は、使い手が手入れしてきた歴史を冊子でたどれる。（89字）

別解　来館者は実演台では札と絵を見て始まる前に線の外へ下がり、杼の棚では道具をのぞき込んでから冊子を開く。その場で必要な注意と、関心に応じて深く読める来歴とで、短い札の働きは違う。（87字）

どちらにも詳しい解説を用意すればよい、と一括りにすると、注意を伝える時機が抜けます。杼の詳しい来歴はあとでも読めるという対照を残せば、道具の名前や木のすり減り方は省けます。

自分の答案を確かめる

短い説明札が役立つ二つの場面で、いつ、何を伝える必要がありましたか。

第二回　川沿いの明かり

問題 17 頁

問一　65〜85字

解答例　橋の近くで仮設の照明を試すと、足元が見やすくなったという声があった。川沿い全体の見え方や住宅への光の影響はまだ確かめておらず、設置は決まっていない。（74字）

別解　橋付近で歩いた人から見やすくなったとの声は出たが、安全性が確かめられたわけではない。ほかの場所や住宅側への光も調べてから設置の可否を判断する。（71字）

別解　仮設照明への感想は橋付近で得たもので、道全体の安全が分かったわけではない。住宅に光が漏れるかなどをさらに調べ、場所や方向を考えて判断する必要がある。（74字）

「安全が証明された」を「見やすいという声があった」へ、「設置を決めた」を「追加の確認が必要」へ直します。一方だけを直した報告では、残ったもう一つの誤解が読み手に伝わります。

問二　40〜60字

解答例　暗い川沿いで足元を照らしてほしいという声がある一方、川辺の住民は、窓に入る光や夜の景色の変化を心配した。（52字）

別解　橋の段差につまずきそうな人がいて照明が求められた一方、窓に光が差したり夜の川の景色が変わったりする心配もあった。（56字）

試行が始まった理由は第一段落にあります。道の足元が見えにくいことと、暮らしや夜の景色への心配を添えると、なぜ場所と光の向きの両方を調べるのかが伝わります。問一の報告の前につなげて読んでみましょう。

自分の答案を確かめる

橋の近くで聞いた感想を、川沿い全体の安全についての結論に広げていませんか。

第三回　読書会の沈黙

問題 18 頁

問一　45〜65字

解答例　発言する人は増えなかったが、紙に書いて感想を伝える人はいた。ただ、そこから全員の考えが分かったわけではない。（54字）

別解　発言する人は増えなかったが、感想を書くという方法が実際に使われた。紙に残った感想だけで全員の考えが分かるわけではない。（59字）

「うまくいった」を全面的な成功と受け取るかどうかは人によります。ここでは評価を一度ほどき、何が起きたかと、その結果から言える範囲を示します。

問二　90〜110字　読書会の沈黙

解答例　読書会の沈黙を気にした由紀は、全員に話してもらう案を考えたが、参加者の言葉を受けて発言以外の方法を試した。紙には感想が残ったものの全員の考えは分からず、次回も方法を工夫しようと考えた。（92字）

別解　由紀は発言の少ない読書会で、全員に順番に話してもらおうとした。だが沈黙の理由は分からないと気づき、紙で感想を伝える方法を試した。いくつかの感想が紙に残り、次は始める前に考える時間も設けたいと伝えた。（99字）

別解　紙にいくつかの感想が残っても、読書会の全員の考えが見えたわけではない。発言が少ないため順番に話す案を考えていた由紀は、沈黙の理由を決めつけず、紙に書いたり考える時間を置いたりする道を探っている。（97字）

前の問の結果をそのまま書き写すだけでは、由紀が最初に考えたことが抜けます。次の回については、考える時間を取りたいと伝えたところまでです。実施後の効果はまだ書かれていません。

自分の答案を確かめる

紙に残った言葉から、そこに書かなかった人の気持ちまで決めていませんか。

章末練習　何に重きを置いて伝えるか　問題 19 頁

同じ本文の二つの要約

解答例　甲は試すきっかけになった両方の声、乙は橋で得た感想と確認した範囲を詳しく述べる。乙には「住宅側への光の漏れ方は、向きを変えてこれから調べる」を足したい。

同じ本文でも、何を知りたい人に伝えるかで詳しくする箇所は変わります。住宅への影響が出たことまで確認されたように書いていないか、語尾を見直しましょう。

聞いて確かめる

解答例　橋の近くを通った人からは、足元が見やすくなったという声がありました。住宅の窓にどのように光が届くかは、今後、明かりの向きを変えて調べます。

「試したのは道のどのあたりですか」「窓に入る光はもう調べましたか」など、一点に絞ると必要な情報を確かめやすくなります。

第五章　何を残し、何を省くか

第一回　灯台までの二つの道

問題 20 頁

問一　　90〜110字

解答例　雪乃は灯台へ行くとき、岩陰に見え隠れする灯台を眺めたくて、坂の多い海沿いの道を歩いた。歩き疲れて足が張った帰りは地図を見直し、少し遠くても坂が少なく、途中の公園で休める住宅街の道を選んだ。（94字）

別解　同じ地図を手にしても、行きと帰りで雪乃の選ぶ道は変わった。行きは灯台を見ながら海沿いの坂を上り、足に張りを感じた帰りは距離の短さより歩きやすさと休める場所を重んじて住宅街を回った。（90字）

別解　駅から灯台までは、短くて坂の多い海沿いの道と、遠くても途中で休める住宅街の道がある。雪乃は行きには岩の陰に見え隠れする灯台を楽しみに前者を選び、足が張った帰りは坂の少ない後者を歩いた。（92字）

青と緑を「海沿い」「住宅街」に置き換えれば、地図を見ていない人にも道の特徴が伝わります。休める道なら誰にとってもよい、と広げると、行きに雪乃が海沿いを選んだ意味が薄れます。

問二

比べる文

雪乃は灯台を眺めたくて、行きは海沿いの坂道を歩いた。足が張った帰りは、遠回りでも坂が少なく、途中で休める住宅街の道を選んだ。

解答例　岩の陰から灯台が現れる様子を省いても、行きは景色を楽しむために海沿いを選んだと分かる。

別解　靴ひもを結び直す場面を省いても、帰りに雪乃が途中で休めることを大切にしたと伝わる。

たとえば「公園のベンチ」は「途中で休める」と短くできます。地図の色や靴ひもを省いても、行きと帰りに別の道を選んだ理由がそれぞれ伝わるか、確かめましょう。

自分の答案を確かめる

道の色を消しても、行きと帰りにその道を選んだ理由は伝わりますか。

第二回　校庭の鳥を数える

問題 21 頁

問一　60〜80字

解答例　一つ目は観察条件の違いを無視して鳥の減少を断定し、二つ目は条件が違っても各日の観察記録として残す意味があることを落としている。（63字）

別解　甲では、数えた場所も時間も違うのに、見えた数の差を鳥の減少としている。乙は各日の観察で何羽見えたかを条件とともに残せることを見落としている。（70字）

甲と乙を「両方とも条件が違うから誤り」で済ませると、乙の問題は残ります。比較に使うのは難しくても、それぞれの日の記録として読み返すことはできます。

問二　90〜110字

解答例　学校で鳥を数えたところ、四月は十二羽、五月は六羽だった。しかし観察した場所や時間帯、長さが違うため、鳥が半分に減ったとは言えない。記録には条件を書き添え、今後は条件をそろえて調べることにした。（96字）

別解　校庭で見えた数は、四月が十二羽、五月が六羽だった。数えた場所も時間帯も長さも違った。鳥が減った証拠にはならなくても、その日に見た数の記録にはなる。係は条件を書き添えて残し、次回からはそろえて観察する。（100字）

別解　愛は観察ノートの「半分に減った」を消し、数字の横に観察条件を書いた。二回で見えた鳥の数は違うが、観察範囲や時間が違うため減少は言えない。係は記録を生かし、次回から条件をそろえて数えることにした。（97字）

主答案は観察した数から、最後の別解は愛が消した言葉から始まります。順序は選べます。どちらの順でも、「記録に残った数」と「校庭に来る鳥の数」が途中で入れ替わらないようにします。

自分の答案を確かめる

減ったのは記録上の数か、実際に来た鳥の数か。短くしてもその違いを示せましたか。

第三回　録画をめぐる会議

問題 22 頁

問一

解答例　講座の録画、試行に向けた準備を開始へ

別解　録画の実施は最終確認後に判断、まず準備へ

「条件付きで録画を決定」でも、まだ一歩先です。本人の了解などは試行案の条件で、録画の実施そのものは会場と講師への最終確認を待ちます。

問二　90〜110字　録画をめぐる会議

解答例　市民講座の録画は欠席者に内容を届けられるが、参加者が質問しづらくなる心配がある。講師の説明だけを撮る案が出たが、決まったのは試行の準備だけだ。録画は会場と講師への最終確認後、継続公開は試行後に判断する。（101字）

別解　参加できない人からの要望を受け、講座の録画を話し合った。顔や声が残ると質問を控える人もいそうなので、講師の説明だけを撮る案が出た。決まったのは準備だけで、実施と継続公開は今後それぞれ判断する。（96字）

別解　会議で決めたのは録画の試行へ向けた準備である。欠席者に内容を届けつつ参加者が質問しやすいよう、説明部分に限って撮る案が出た。実施は会場と講師の最終確認後、継続公開は試行後に判断する。（91字）

主答案は二つの立場から始まり、最後の別解は決定事項を先に伝えます。「実施」と「今後も公開すること」は別々に判断されるので、まずどちらかが決まったような語尾になっていないか見ます。

自分の答案を確かめる

録画の試行に向けて、もう決まったことは何か。その先の二つの判断と区別できましたか。

章末練習　伝える相手に合わせて書き分ける

問題 23 頁

短く伝える　発展

解答例　講座の録画は、試行に向けた準備を進めることだけが決まりました。録画するかは最終確認後、公開を続けるかは試行後に判断します。（61字）

別解　会議では講座の録画を試すための準備を進めることが決まった。実際に録画するかは最終確認後、毎回公開するかは試行後に決める。（60字）

短い報告では、決まったことと次に判断することを先に伝えます。撮影しない席などの案は、詳しい報告で伝えられます。

詳しく伝える　発展

伝える相手に合わせて書き分ける

解答例　市民講座の欠席者にも内容を届けたいが、質問する人の顔や声が残ると発言をためらう人もいるかもしれない。そこで、講師の説明だけを録画し、質問を紹介するときは本人の了解を得て文章にする案が出た。決めたのは試行の準備だけで、実施は会場と講師に最終確認してから、今後も公開を続けるかは試行を振り返って判断する。（150字）

別解　会議では、欠席者からの要望を受け、講座の録画を試すための準備を進めると決めた。欠席者に説明が届く一方、質問しづらくなる心配があるため、講師の説明部分だけを撮り、撮影しない席も設け、公開前に講師に確認してもらう案である。録画の実施は会場と講師の最終確認を待ち、継続して公開するかは試したあとで決める。（149字）

詳しい報告では、参加者が質問を控えるかもしれないという懸念と、講師の説明だけを撮る案を結びます。短い報告と読み比べると、相手に応じてどの情報を戻したかが分かります。

第六章　全体を受け取り、伝える

第一回　読む速さを決めるもの

問題 24 頁

問一　95〜110字

解答例　読む速さは理解の深さを保証しない。時刻表では必要な情報を探せばよいが、募集案内では条件を確かめる必要があり、手紙は後から読み直すこともある。目的に応じて読み方を変え、説明して理解を確かめることが大切だ。（101字）

別解　読む速さだけでは理解できたかは分からない。募集の案内なら、締切を見つけたあとも対象者や例外を確かめる必要がある。読む目的に応じて途中で読み方を変え、分かったことを説明して、足りない箇所は読み返すことが大切だ。（104字）

別解　時刻表、募集案内、手紙では、求めるものが異なるため適した読み方も違う。速くても読み落とすことがあり、遅くても全体を見失うことがある。目的に応じて読んだあとも、説明や読み直しによって理解を確かめたい。（99字）

「文章によって速さを変える」で終わると、うまく選べたかをどう確かめるのかが見えません。募集の案内一つでも、何を確かめるために読み方を変えるのかを示せます。複数の例や、速く読んで見落とす場合と細部を先に読んで全体を見失う場合を使って説明することもできます。

自分の答案を確かめる

例をいくつ挙げたかに加え、最後に自分の理解をどう確かめるかを読み返しましょう。

第二回　版を重ねる

問題 25 頁

問一　　105〜130字

解答例　凪と理央が港の版画を刷ると、青がずれて船のへりは二重になり、波には細い白が残った。理央は両方の版を直そうとした。だが、凪と窓際で波の白い縁を見るうちに、その白が波の返るところのように見えてきた。二枚目では船の版を合わせ、波の版だけをわざとずらした。（124字）

別解　一枚目で偶然できた波の白は、二枚目にも残った。船のへりに黒と青の線が並んだとき、凪は紙を窓際に運び、波に残った白いところを理央に見せた。白が波の返るところのようだと言った理央は、次には船の色を合わせ、波の版だけを右へ寄せて刷った。（115字）

別解　凪と理央は港の版画を二枚並べて干した。最初の一枚では青がずれたが、凪が窓辺で紙を傾けると、白い縁が波の返るところのように理央にも見えた。二枚目では船の青を輪郭に合わせ、理央は凪が横に持つ一枚目を見ながら波の版を少し寄せ、白を残した。（116字）

出来事を順に書くと、ずれをどう見直したかが伝わります。最後に並んだ二枚から書き始めると、波の白がなぜ似ているのかを説明できます。二人が見た箇所と、二枚目を刷ったときの手の動きを結んでみましょう。

刷った紙	船のへり	波の縁
一枚目	青がずれて黒と青の線が並んだ。	青がずれて白がのぞいた。
二枚目	船の青を黒い輪郭に合わせた。	波の版を少し寄せて白を残した。

自分の答案を確かめる

二枚目に残したずれと、直したずれを、初めて読む人も見分けられますか。

第三回　商店街の音をたどる

本文 26 頁　設問 27 頁

問一　125〜155字

解答例　文化センターが録った朝のシャッターの音は、開店前の通りを思い浮かべる手掛かりになる。朝の録音だけでは伝わらない時間や音もあり、時刻を変えた録音に、音の大きさを示す測定記録と、音の感じ方を伝える店の人の語りを加えた。資料ごとの条件を示し、昔の商店街をたどる展示を作った。（134字）

別解　夕方の呼び込みを好んだ人もいれば、落ち着かなかった人もいた。文化センターは、商店街で働いた人が語る音の記憶を、録音と騒音調査の測定値とともに展示した。録音の日時、調査での測り方、語り手の立場を添え、どんな条件で残った資料かを見ながら昔の通りをたどれるようにした。（131字）

別解　騒音調査の数値からは音の大きさが分かる。朝の録音では、自転車が通る音のように、何の音かも聞き分けられる。文化センターは測定値や録音に加え、店で働いていた人の語りを集め、音をどう受け止めたかも伝えた。測り方や日時、話し手の立場を示し、三種類の記録を行き来しながら昔の通りの姿をたどれる展示にした。（147字）

朝の録音は聞こえた音を、測定値は音の大きさを、語りは感じ方を伝えます。どれを例にしても、ほかの資料を並べると何が見えてくるかまで書きましょう。夕方の呼び込みは記憶として語られています。

問二　65〜85字

解答例　商店街で録った音、騒音調査の数値、店で働いた人の語りを紹介します。どこで録った音か、誰が語った思い出かを確かめながら、昔の通りの姿をたどってみませんか。（76字）

別解　昔の商店街では、どんな音が聞こえていたのでしょう。現地の録音や、音の大きさを測った記録、店で働いていた人の語りを手掛かりに、かつての通りをたどる展示です。（77字）

別解　シャッターの音を聞き、騒音調査の数値や店で働いた人の語りを読み比べる展示です。いつ録音したのか、誰の思い出なのかを知り、昔の通りの姿を思い浮かべてみてください。（80字）

来場者が何を聞き、どう見比べられるかを伝えます。集めた経緯を縮めても、音、測定値、語りを通して通りをたどるという展示の内容は残せます。

自分の答案を確かめる

一つの資料から分かることと、ほかの資料があって初めて見えることを、具体例で結べましたか。

章末練習　もう一度、自分の言葉で

問題 28 頁

聞いて伝える

解答例　開始時刻は予定どおりです。途中から来る人が分かりやすいように、最初の説明を短くして資料を配る案が出ています。どちらも、次の準備会で相談します。

「資料を受け取れます」と伝えると、提案を約束に変えてしまいます。開始時刻と、説明・資料についての案を分けて伝えましょう。

書いたものへ戻る

解答例　「昔の商店街の夕方の音を録音した」なら、「時刻を変えて商店街の音を録音した」と直す。夕方という時刻は、商店街で働いた人の語りに出てくる。

別解　「二人は版のずれを直した」なら、「船腹の版を合わせ、波の版だけを少しずらした」と直す。二枚目を刷った場面で、手の動きが違っている。

書き直しが要らないときは、もとの一文と、それを支えた本文の箇所を示せば十分です。最初に気づかなかった一語が、次に何を読むかを教えてくれることもあります。

章末練習 ／ 読み手の方へ

読み上げ用原稿

聞く人には原稿が見えないようにして、一つの連絡をふだんの速さで読んでください。聞き返されたら、その箇所をもう一度読みます。

第一章　集まりの時刻

今度の集まりは土曜日の午後の予定でしたが、会場の都合で午前に変わりました。集まりが始まるのは十時です。資料を先に受け取りたい方は、九時半から来ていただけます。それでは土曜日にお会いしましょう。

第四章　橋の明かり

橋の近くに仮の明かりを置いて、通った方にお話を聞きました。足元が見やすくなった、という方が何人かいました。「住宅の窓にも光が入りますか」という質問もありました。これから照明の向きを変えて調べます。今回、明かりを置いたのは橋の近くだけです。

第六章　交流会のお知らせ

来週の交流会の開始時刻は、予定どおりのままです。途中から来る方のために、冒頭の説明を少し短くして、あとで資料を配ってはどうかという案が出ています。説明の長さも、資料を配るかどうかも、次の準備会で相談します。

和会塾（なごらいじゅく）　|　**要約して読む　第一冊**

本文・設問・解説は本冊のために制作したものです。

2026 年 11 月　改訂

教材についてのお問い合わせ　和会塾のウェブサイト